

第4回 小学校再編に関する地域住民説明会（千代小学校区） 概要

- 日 時 : 平成30年7月27日（金） 19時開始
- 場 所 : 千代小学校 2階 多目的室
- 参 加 者 : 12名
- 教育委員会 : 吉岡教育長 他8名
(事務局)
- 内 容 : 1. 開 会
2. 教育長あいさつ
3. 教育委員会職員紹介
4. 配布資料確認
5. 説 明
① 小学校再編に向けて
② 小松島市立学校再編基本計画（案）
③ 学校施設の利活用
6. 質疑・応答（意見交換）
7. 閉 会

地域・保護者等から出された主な意見と回答

○以前は5校というのは実際には絞れていたのか、どこが残ってというのが。実際3校ぐらいというのも今の時点では案としてはどことどこがということを考えているのであれば教えていただきたい。

→（回答）

平成24年8月の再編計画ではどことどこが一緒になると、どこにというのはある程度お示しをしていたと思う。昨年有識者会議を立ち上げ、この「基本計画（案）」を審議いただく中で3校程度であればどういったことが考えられるのか、ということの有識者会議で示した。あくまでも既存の学校敷地を前提に4パターン示したが、再編にあの中からはどうなるのかといったようなことは若干流動的なところも再編の場所によっては出てくると思う。

○今回複数クラスを重視されているのかなあとと思う。北小は20年位前から単独クラス、1クラスしかないと思うが、この20年何故放置していたのか。

耐震化工事、今回全ての小学校と一部の中学校されているが、再編するのだったら何故耐震化工事をしたのか。

3校に編成するという話だが、学童保育の今の水準を維持できるのか。ただでさえ、今の南小松島小学校の学童保育は受け入れ的な問題で大変と聞いている。これがもっと児童数

が増えるわけだが、それでも学童保育が維持できるのかと思う。そこまで考えているのか。

→ (回答)

当時から11の小学校ほぼ1クラスで、その当時はそういった形の教育があったが、更に子どもが減少していき、同じ1学年1クラスでも10人を割っていわゆる複式学級になる恐れがあるといったようなことが想定されるようになってきた。その中で、やはり教育という観点から、ちょっとでも人と触れ合って、いろいろな意味で2クラス以上ある方が教育としてはいいということで、平成24年8月の学校再編計画とか、今回の見直しに至っている。

耐震工事ができていないということは、仮に地震があった時には施設が崩れる可能性が高いということで、学校再編あくまでも中・長期的なところを見据えていくのだが、当然のことながら今の子どもさんも、行政としては守っていかなければならないというようなこともあるので、延命措置まではできていないが、少なくとも建物の倒壊を防ぐ為の措置ということで、耐震化工事の実施をさせていただいた。

再編後、今現在の8つの学童保育クラブをどうするのか、といったところが今後の課題として出てくるが、そういったことに対して、市の児童福祉課もしくは関係部局であるとか現在運営されている学童保育クラブの方々とも、市を交えて協議する必要があるかと思う。

○小学校と地域のコミュニティの問題があると思う。各小学校には必ず公民館というものが隣接しており、地域と学校の方々とのつながりを大事にしていくということがあると思う。今回再編3校という案だが、多分他のPTAの保護者の方たちの中では、どことどこが一緒になるというのが話題になっていると思うが、私の考えとして、既存の学校ではなく、新たな場所を探して、そこに全く新しいものを作った方がいいのではないかと思う。

→ (回答)

最終的にはどことどこが一緒になるのか、何校になるのか、ということが一番関心があるところ。中身については「実施計画」で、ということは今のところ予定している。そういったことに対してもいろいろ御意見をいただければ、今後の我々委員会での判断には十分確認させていただくことになろうかと思う。

○35人学級で計算されていて、それは国で決まっているのかもしれないが、今千代小学校だと大体20人前後の学級で授業を行っている。先生が一人一人に目が行き届いていて、私はすごくいい感じかなと思っている人数だが、ここで小学校の35人は多いような気がして、人数については言う余地はないのか。

→ (回答)

学級編成の基準であるが、小学校の場合で同学年の児童で編成する場合、学級の人数は国の法律では40人と決められている。県の方では少人数学級を推進しているということで、35人が上限だというような拡大をしている。35人が上限とはどういうことかということ、35人だったら1クラスだが36人だったら2クラスになるということ。1学級当たりの人数が

35 人の場合だったら、1 学年 1 クラスで 35 人という話が出てくるが、36 人だったら 18 人の 2 クラスということ。

○3 校にするというので皆さん御意見がいろいろあると思うが、千代は千代のまとまり、南は南のまとまりで他とくっつく地区は今と同じが前提なのかどうか。千代は担任の先生以外でもフォローされていて、保護者としても見ていて安心という部分も感じるので、1 クラス 35 人と単純計算するのではなくて、低学年はもうちょっと小さいクラス編成を踏まえて入れ込んでいただければ、より安心かなと思う。

耐震化の建物の件だが、老朽化した学校のその後の使用について現時点で何らかの構想があるのであれば教えて欲しい。

→ (回答)

基本計画でもお示しているが、現時点では学校単位の再編であるということ。クラス編成で上限 35 人というのはあくまでも県の教育委員会がこういう推進をしている。人員配置については県の教育委員会の方になるので、市町村独自で手厚いという部分については、できるところとそうでないところの両方があると思う。

千代小学校にしても他所の体育館にしても施設が非常に古い。再編当初はそういった施設を利用している方がいるので、現状の考え方としては、施設の利用者がいる以上は維持する必要があるだろうというふうに考えている。校舎については、現状では学校だけしか利用していない。耐震化はできているが非常に老朽化しているということで、今後解体するのか、再利用するような補修をするのか、といったことはこれから考えていかなければならない。

○現在の子育てをしている方の意見が、私は子どもが 1 歳半だが参考になった。是非とも少人数学級というのは維持してほしいと思った。先生も子どもたちをしっかりと見ることができると思う。今いじめとかいう問題があるので、少ないほど目が届くという意味で是非これは維持してほしいと思う。

小学校の体育館は避難所として指定されているが、今後 20 年 30 年経ったら避難所としての機能が維持できるのか。

今保育所不足というのが進んでいると思う。幼稚園は殆ど活用されていない、維持できているところが少ない。最近、北小松島幼稚園も公民館に変わった。使わない幼稚園の施設を保育所として民間に貸すといったことを考えているのか。

→ (回答)

現状は緊急の避難所ということで、市の危機管理課の方から指定をしているという状況。避難所であるがために大規模な施設をメンテをして維持していく必要があるのか、地域のための避難所が周辺地域にあるのかどうか、そういったことも最終的には市の危機管理課も含めて協議・検討する必要があると思う。

幼稚園に関して、廃園してそのままの施設でまだ用途が決まっていない施設があるのは

確か。今現状、民間の保育所が小松島市には数か所あるが、認定子ども園化（認定子ども園：保育所の機能と幼稚園の機能を合わせ持った施設）ということで切り替えて移行しているような形になっており、まずは民間さんの事業展開、認定子ども園化というので状況を見ようというところ。

○「基本計画（案）」ということだが、有識者とかいろんな方で意見とかしていただいていると思うが、その中で地図を見る限りでは小松島市内には今現在 11 校あるのを 3 校にすると、結構 1 校当たりの範囲が広がるので、通学のためのバスであるとかそういうことを考えておられるみたいだが、この際中学校と小学校を一緒にするとかいう案や意見はなかったか。小中を今現在中学校は 2 校だが、小学校を 3 校でなくて思い切って小中同じ小松島中学校に小学校を併設する、小松島南中学校に小学校を持ってくるというふうな案とか、そういうものはなかったのか。私の考えは、もう 3 校にするならいっそ 2 校にしたらいんじゃないかと。

→（回答）

小学校の数が少なくなったら、小中連携とか考えていかなければならないなあという意見があったのは確か。いろいろな意見が出て結果的にはこういう大きな柱から言えばこうなっているが、ここまでに至る経緯というのはさまざまな御意見をいただいている。

○千代小学校はすぐに行ったら徳島市になるので、千代小学校区に住んでいてもその辺の小学校に行ったり、市内の中学校に行ったり、やっぱり制度的な問題でそういう方が結構おられるので、高校の学区外も含めてその辺も一緒に考えていただきたい。